

## 第2回 江戸川区立図書館基本計画検討委員会 議事録要旨

---

日時：令和5年9月8日（金）

午後2時00分～3時49分

場所：江戸川区立中央図書館 視聴覚ホール

### 1 開会

- ・第2回より委員に就任した安田（健）委員より挨拶。

### 2 学識経験者による講話

大串夏身 昭和女子大学名誉教授「今後の図書館のあり方について」

- ・公立図書館とは
- ・本と情報等の活用
- ・図書館として備えるべき空間
- ・日本の公立図書館の歴史
  - － 補：賑やかな図書館空間のイメージ
- ・まとめ これからの日本の公共図書館について
  - － 人が集う賑やかな図書館へ
  - － 図書館活動への住民の参加
  - － 教育内容の変化に対応する事業・サービスを
  - － 調べるサービスの充実
  - － ICTの活用に積極的に取り組む
  - － 0歳児からの読書
  - － 地域情報の収集と組織化と地域諸組織との連携

### 3 報告

#### (1) 第1回の議論で出たポイント

- ・第1回の議論で出たポイントを安田（健）委員より説明。

#### (2) 江戸川区立図書館の現在のサービスとコレクションづくり

- ・江戸川区立図書館の現在のサービスやコレクション、特色ある事業について、竹内委員より説明。

- ・(1) (2) の説明内容に関わる質疑応答

<各委員の意見>

- 友人が以前住んでいた地域では、移動図書館の車が来て、ある程度の時間停まって、図書館まで行かれない方たち、乳幼児のお子さん連れの方や、おじいちゃん、おばあちゃん、皆が来ていて、すごく楽しかった、江戸川区もそんな取り組みはないのかしらという話をうかがった。
- 小学校低学年くらいのおはなし会をやっているが、子どもたちが来ない。0歳から3歳くらいの読み聞かせにはびっくりするくらい子どもたちが来るのに、そこで途切れてしまっている。どういうふうにしたら来てくれるのか。図書館と相談させていただきたいと思う。
- まさにその部分に裂け目が生じていて、小学校中学年、高学年に行くにしたがって、その裂け目がものすごく大きくなっていく印象。図書館としては、例えば一日図書館員とか、目線を変えて図書館に来ていただくという取り組みをしてはいるが、正直なところ答えが見出せずにいる。相談しながら、いろいろな取り組みを今後もしていければと思う。
- 新しい図書館を作ろうとすると、住民から子どもたちを静かにさせろという意見が出る。もっと考え方を変えていくことが必要。板橋区立中央図書館では、小学生だけを対象にした部屋を作って、自由に子どもたちが集まっておしゃべりができて、また書架に戻って本を選べる。さらに、意識的にそういうことができる伝える。ドイツやアメリカの公共図書館では宿題支援をしている。それを行っているのは、おそらくボランティアの図書館員。例えば地域の大学があって、そこに教育学部があれば、その学生の方に来ていただいて、宿題の面倒を見てもらうとか。そういうことを意図的に考えないと、なかなか生徒たちが図書館に足を向けようという気持ちにならないと思う。
- 閲覧机は、宿題をやる場所ではなくて、基本的には閲覧、図書館の本などをお借りした上で利用するのが基本だろうか。子どもたちは家が狭いので、喫茶店に行って勉強するというのもやっている。70万の人口のうち、小、中、高校生たちが図書館に押しかけたら、いっぱいになってしまうだろうというのはあるが、図書館の考えをうかがいたい。
- 収集方針の問題もある。日本語検定など都立高校が単位化している資格がある。そういう問題集も図書館は基本的に置かない傾向。ニーズに応じてそろえることが必要なのでは。もう一つは、教科書を置かないと、区民の皆さんが子どもたちの教育について議論するときに、どこで手に入るのかという話になってしまう。区民の皆さんの意見を形成する上で、そこも考えていただきたい。
- 教科書は一部置いている図書館がある。閲覧席は、原則としては図書館の本などを使っていただくためのものになるが、学習したいという声も多くあり、自分の持ってきたものを使いたい方もいらっしゃる。江戸川区の図書館の場合スペースがないが、閲覧席が混んでいないときは、可能な限りは、各図書館の運用で、あえて注意はしないで使っていただくというような運用はしている。

- 試験期間、その前の1週間くらいは、生徒たちの専用スペースというふうにして、そこに来ていただいて勉強してもらうことをしている図書館もある。親と子の時間を作っている図書館もある。地域資料室で各政党の報告会をやっているところもある。質問や疑問があったら、皆で本棚から取り出して読める。それから美術の講座を美術の本が並んでいるところでやるとか。質問が出たときに、本棚からこの図版を見ればいいとすぐ皆に見せることができ、好評だったとうかがった。ただ、閲覧室でやるから、1か月くらい前からそういうことをやると、住民に周知徹底すると館長が言っていた。図書館の空間は狭いから、すべての機能を持たせるのは難しい。期間や時間を区切ってシェアしてもらう。限られた空間を、皆で協力しながら使っていくという考え方も必要なのではないか。
- 図書館で勉強しようと思ったとき、同じ机の向こう側の人の様子が気になる。葛飾区は机に衝立がある。スペースが限られているのであれば、その期間だけでも、そういった工夫があれば、プライベートなものを見られないで、自分だけのものに没頭できるのかなと思う。将来そんなことができるようになればいいなと思う。
- 図書館で、その日はわいわいしてもいいよという日を決めれば良いのではないか。スペースをこれ以上増やすことができないのであれば、そういう方法で、毎週何曜日は皆で勉強できるよとすれば良いのでは。
- 小さい頃から知らないうちにルールを学ぶ、借りたものを元に返す、そういうことが自然にできる人に育つには、公共図書館はとても良い場所なのではないかと感じる。そういうことを一つ一つ、小さなことから芽を伸ばしてくださるとありがたいなと思う。

#### 4 議事

##### (1) 2030年の江戸川区立図書館（基本計画の目標）

- ・計画の期間及び目標について安田（健）委員より提案。

##### (2) 2030年に向けた基本方針・取組

- ・目標達成のために実施する取り組みの基本方向について安田（健）委員より提案。
- ・(1) (2) に関わる意見交換

##### <各委員の意見>

- 図書館を指定管理で運営している個人経営の書店があり、そこでは書店での返却、貸出というようなことをやっている。江戸川区でも今、サテライトということをやっているが、書店でそういったことをやるのも面白いのではないか。書店の中で、なんで図書館の仕事を書店に持ってこなきゃいけないんだという意見があったりもしたが、けっこう比較的良いんじゃないかという意見もあった。書店と図書館との連携という部分では、そういったものもあたりするのではないかと少し思っている。

- ここで出てきているのは、子どもの話が多かったような気がしている。子どもに加えて、江戸川区が自治体として大変人数が多い自治体の1つになっている、外国の方をどうやって扱っていくか。次回以降、外国の方についても入れて、お話できれば良いのではないかなと思う。
- 地域の人々がつながり共生する拠点となることなどに若干関連するかなと思うが、先ほど図書館の方が少ないといった話があり、ボランティアの方もいるとあったと思うが、ボランティアばかりではなく、図書館に雇用として短期でも働く場所みたいなものとしてあったら、皆がすごく興味を持ったり、関われるのかなと思う。
- 今回、特に前半ではお子さんに関する話が多くあり、後半では、熟年者の方、外国人の方への対応もということで、地域に目を向けると書店さんとの関わりもということで、非常に多くの話題が、区立図書館の計画の中に盛り込まれていくのだなと思った。図書館としてどうあるべきかというところと、もう少し広く言えば、区の、行政としての子育て、外国人の方への対応、あるいは経済的なところの、社会のあり方などとも結びつきがあるのかなと思う。図書館単体でどういうものが良いという話もあるが、他の部署と協働してできる部分など、広い視点で考えていきたい。
- 大人へのサービスは、図書館は社会教育機関なのでもう少し真面目に考えなければいけない。教育が変わってきていて、情報とか、新しい科目が出てきているというのもあるし、中学生が地域の課題について取り組もう、よりよい社会づくりのためにどういうふうになったら良いかを皆で考えて提案しようとか、そういったものも出てきている。社会に出た人間は、どういうきっかけがあれば学ぶことができるのかということを考えていかなければいけない。情報の調べ方とか、検索の仕方、考え方とか、いろいろ地域社会でトラブルが起こっている。フェイクニュース、プライバシーの問題などもある。情報モラルの問題もあるので、それは教科書あたりをちゃんと、皆で学び直さなければならぬんじゃないか。地域の人々の関心を高めるということが、地域社会を良くする、プラスにするためのいろいろなことに関わる、図書館はその中でどういう役割を果たしてくれるのかというような話もうかがう。
- 例えば、レファレンスサービスのところで、都立図書館や国会図書館に協力いただいて進めていただく。国会図書館から資料を借りることができるとか、レファレンスに関する問い合わせをすると非常に素晴らしい回答を寄せていただけるとか、それをもう少し、区立図書館でも住民の方へ宣伝していただいて、利用していただけるような機会を作っていただくと良いのではないか。それから今、国会図書館がデジタル化を進めている。デジタル化を進めるだけでなく、全文検索ができるようにしている。官報も全文検索できる。地域資料も区史や市史、あとは雑誌などデジタル化している。それから、調べ学習で審査委員をやっているが、検索の仕方など、もう少しちゃんと資料をご案内したら良いんじゃないのかという事例が多くある。もっと住民の方に図書館員に声をかけてもらえるようにするなど、いろいろと検討いただくと良いのではないか。

## 5 事務局からの説明

## (1) アンケート調査の実施状況

- ・調査の実施状況、及び調査結果報告の予定について事務局より説明。

## (2) 次回の予定

- ・次回の会議は10月20日（金）午後2時開催。会場は江戸川区立中央図書館 視聴覚ホールとする。

## 6 閉会



議事の様子

□委員構成

学識経験者	2名
書店関係者	1名
学校関係者	2名
地域関係者	4名
江戸川区民	4名
江戸川区職員	3名
図書館職員	2名

欠席 6名（学識経験者1名、学校関係者2名、江戸川区民3名）

□傍聴者 8名

□配付資料

- 【資料1】日本の図書館のこれからについて考えるメモ
- 【資料2】江戸川区立図書館基本計画検討委員会（第2回）資料
- 【資料3】【提案】2030年に向けた江戸川区立図書館の目標と基本方向
- 【資料4】「江戸川区立図書館に関するアンケート」調査票
- 【資料5】「江戸川区立図書館に関するアンケート」ポスター
- 【参考資料1】参考事例（サービス及びコレクションづくり）